

グリーンカルチャー

令和3年度

冬号

No.320

こらか

発行 | 甲賀農業農村振興事務所
農産普及課

住所 | 〒528-8511

甲賀市水口町水口6200

電話 | 0748-63-6126

発行責任者 | 市井 広樹



地元産なしが直売所で好評！

ていじゅこう

低樹高栽培で生産拡大中

平成25年から、関係機関の呼びかけで始まったなしの栽培は、法人経営体や定年帰農者を中心に拡大しています。最近では、農福連携での取組もみられます。直売所での販売量も年々増加しており、消費者からもたいへん好評です。



新技術でなし栽培を始めませんか

ていじゅうこう

低樹高栽培と低コスト棚で早期成園化・軽労化

■ 苗木植え付け3年目で初収穫、5年目で成園化

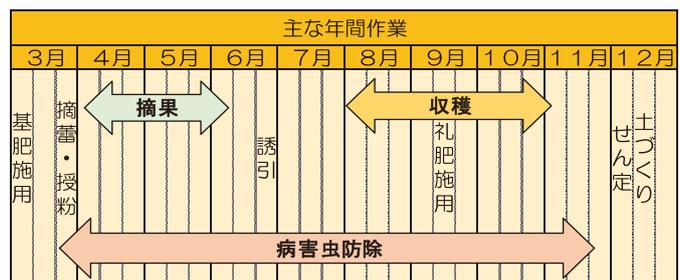
従来のなし栽培は、苗木の植え付けから成園に至るまで少なくとも7年は必要でした。しかし、低樹高栽培では3年目で収穫を開始でき、5年目で成園の収量が得られます。高収益作物の導入でいち早く収益確保を目指す経営体や早期に収穫を開始したい定年帰農者等にお勧めです。

10a当たりの経営指標		
利益	年間労働時間	時間当たりの利益
87万円	295時間	2,900円

※県経営ハンドブックに基づき低コスト棚導入を前提に試算



■ 栽培管理は手の届く範囲での作業が中心



←苗木植え付け2年目の低樹高栽培、次年度からの収穫を予定

低樹高栽培は、地面から1mの高さに配置した主枝と果実を成らせる結果枝で構成するシンプルな樹型です。従来のなし栽培では頭上にあった棚面が、低樹高栽培では目の前に広がります。栽培管理は手の届く範囲での作業が中心で、脚立が不要で、身体への負担も少なく安全に作業ができます。また、せん定作業も結果枝の更新が主な作業となり、技術の習得も容易です。

■ 自力施工可能な低コスト棚で初期投資を軽減

低樹高栽培で用いる低コスト棚は、パイプハウスに用いる一般的な部材を使うことで自力施工が可能です。また、不整形のほ場での設置や、労力と資金に合わせて小面積の取組も可能です。

定年帰農を契機に3年計画で拡大した低コスト棚→



■ 甲賀地域なし栽培研究会で技術研鑽

技術習得は、栽培農家が参加する甲賀地域なし栽培研究会で定期的に研修会を実施していますので安心です。栽培に関心がある方は当課までお問い合わせください。

集落環境点検を実施しませんか



○集落環境点検とは

野生獣が里に出没するようになった背景には、里山の環境や人間のくらしの変化、野生獣の増加や活動域の拡大、人間の気付かない餌付けなど、その原因は地域によって様々です。集落環境点検とは、集落の皆さんと指導機関と一緒に獣害の発生原因を点検することにより、地域の問題点を整理・再認識したうえで、地域の実情に応じた対策を実施することを目的に行うものです。

○甲賀市の事例

甲賀市水口町伴中山集落は、イノシシによる被害に悩まれており、令和2年6月に集落環境点検を実施されました。

・集落代表者と関係機関で点検

今回の集落環境点検では、集落代表者と県の獣害担当者で、集落のほ場や集落への侵入場所を巡回し、柵の管理状況や侵入経路を確認しました。後日、勉強会を開催し、巡回した点検結果を共有するとともに、イノシシの生態や改善策の提案内容について説明・紹介しました。

・対策により被害が激減！

集落環境点検を実施した後、集落では侵入防止柵に加えて、イノシシの侵入防止効果のある目隠し資材（ネット）を設置するとともに、柵の周りの定期的な草刈りや破損箇所の補修を実施されました。それにより、これまで、年間65万円程の農作物被害があったのが、対策実施後は、ほとんど発生しなくなりました。

獣害にお困りの集落の皆様、集落環境点検を実施し、具体的な対策につなげていきませんか。
点検の詳細については当課までお問い合わせください。



イノシシに突破された侵入防止柵
の補修についてアドバイス



勉強会の様子

滋賀の「おいしい」が丸わかり！！

「食」の情報発信サイト **滋賀のおいしいコレクション**



「食」の情報発信サイト「滋賀のおいしいコレクション」では近江米や近江牛、旬の農産物など様々な「滋賀のおいしい」を発信中！！

生産者や産地の紹介、滋賀の食材を買える・楽しめるお店などの検索機能も充実しています。

「滋賀のおいしいコレクション」ぜひ一度ご覧ください！

<https://shigaquo.jp/>

滋賀のおいしいコレクション



濁水防止！田植えまでの基本技術

毎年、4月中旬から5月下旬の代かき、田植えの時期にかけて、水田から流れ出た濁った水が河川に流れ込み、琵琶湖の濁りの原因となっています。水稻を栽培されている全ての農家の皆さんが、下の基本技術を再確認し、農業排水対策に取り組んでいただきますようお願いします。

- 丁寧な均平作業
- 畦、排水口の漏水対策
(畦の亀裂や穴を補修、止水板の設置)
- 浅水代かきの実施
(土が7～8割見える状態で代かき)
- 代かき前、田植え前は水を落とさない
(計画的な作業により強制落水をしない)



浅水代かき

被覆肥料殻の流出防止

水稻の基肥一発肥料などの緩効性肥料の多くは肥料成分がプラスチックの殻で覆われています。このプラスチックの被覆殻が、水田から河川を通じて琵琶湖に流れ込むことがあり問題となっています。そこで、県やJAなどでは、自然界で微生物などに分解されやすい生分解性プラスチック殻を使った肥料やプラスチックを使わない緩効性肥料の実用化に向けて試験を実施しています。



水田の端に吹き寄せられた被覆殻

★甲賀地域の農業・農村関連情報を発信しています！

当事務所では、今年度から新たに Facebook と Instagram を開設しました。

名称は「アグリウィンド こうか」です。

「アグリウィンド こうか」では、甲賀地域の農業・農村風景や農業・農村に関するタイムリーな地域の関連情報を掲載しています。

SNSを通して、甲賀地域の農業を身近に感じていただけるよう情報を発信していきます。



Facebook



Instagram

